

算数科

における深い学びに到達した児童像

柱① 情報の分析	柱② 考えの形成 ・再構築	柱③ 既習・新知識 の活用	柱④ 課題発見
深い学びポイントとの関連			
3自力 4協働	3自力 4協働 5練り上げ	2見通す 3自力 4協働 5練り上げ	1つかむ 2見通す 6メタ認知
◇問題解決に必要な情報を様々なデータから見極めて自分の考えを整理する。	◇自分の考えと友達の考えを比較、検討しながら自分の考えを再構築することができる。	◇整理した考えとこれまでの学びを活用することができる。	◇新たな疑問や課題をもったり、自分の力に合った問題を選択したりすることができる。

児童像の実現のために効果的だった手立て

【学びの自律化】

- ◇ 学習計画表を活用し、見通しをもって学習できるようにした。
- ◇ 学習のゴールや身に付けたい力をルーブリックに提示し、児童自らが学習内容を選択・実行・管理し、勉強の成果について振り返りを行っていく学習プロセスの構築(自由進度学習)を行った。
- ◇ 学習のはじめに1時間の目標を立て、最後には振り返りを行い、自分の学び方をメタ認知できるようにした。

【個別最適化】

- ◇ 教科書の適用問題だけでなく、学習内容(計算ドリル・スタディサプリ・ドリルパーク)を選択できるようにした。
- ◇ スタディサプリやドリルパークを配信する際には、一人ひとりに合った内容を配信した。

【学びの自律化・個別最適化】

- ◇ 学習形態を「一人・友達と・先生と」と複線化した。

【探究化】

- ◇ 場面の様子をアニメーションで提示した。
- ◇ クラウドを活用し、児童の考えや思いを可視化・共有化できるようにした。
- ◇ PowerPoint や Excel を活用し、集めた情報から自分の考えを整理、表現できるようにした。
- ◇ 導入の展開で動画を用いて、既習事項を確認し、関心をもてるようにした。

【その他】

- ◇ いつでも復習ができるよう、前時までの復習を行ったり、教室に算数コーナーを作ったりした。

実践の成果（○）と課題（▲）

- 自分にあったやり方や、自分にできる方法（一人で考える、友達と考えるなど）を選択できるようにしたことにより、以前よりも自分のペースで主体的に学習に取り組む児童の姿が見られた。
- 学習のゴールや身に付けたい力を提示したことで、そのために自分には何が必要か、自己調整しながら学習に取り組む児童の姿が見られた。
- イラストや数、言葉を用いて、場面から様子をつかみ取る導入を行ったことで、本時の課題に主体的に取り組む姿が見られた。
- 前時までの復習や、前学年までの既習内容を振り返ったことで、全員が土台にのった上で学習を進めることができた。
- 一斉指導で個別支援が困難な反面、自由進度学習では、充実した個別支援が可能となった。
- 自由進度学習を通して、学習プロセスの構築やメタ認知の獲得ができた。
- ▲クラウドを活用したことで、考えや思いを表現できても、言葉で説明できない児童が多かったため、どう言葉にしていくか、どう伝えさせるかを今後考えていく必要がある。
- ▲自由進度学習では、学力差が課題となった。
- ▲学習を一人で進められない児童に対しての個別支援に対応することに注力してしまい、全体の学習状況を把握することが困難だった。
- ▲学習形態を複線化したことにより、教え合う場面は多くみられたが、仲のよい子同士で集まって学習をするなどの様子もみられ、環境づくりが課題である。